



# 緑化建設協会だより No.26

発行所 社団法人 石川県造園緑化建設協会 広報委員会

発行責任者 北市 一博

〒920-0374 金沢市上安原町137街区7番地 TEL076-269-1110 FAX076-269-1279

## 「日中の草の根交流を目指して」

石川県議会議員  
紐野義昭

「二〇〇四年石川県日中友好交流派遣団(団長・紐野義昭 議員 団員数六十名)は、平成十六年五月八日(十二日)までの四泊五日で実施されました。

日中における交流は、古く遣唐使・遣唐使の時代から二〇〇〇年以上の歴史を有しており、近年の両国関係は、相互努力により史上最も良好な状態にあるといえます。

私達は、新時代における中国との心の架け橋を構築するため、石川県と友好関係の深い江蘇省及び南京市の方々との文化交流を目的に代表団を派遣いたしました。今回は、特に関係機関のご協力をいただき、チャーター便による小松空港着のプログラムで実施いたしました。



写真提供 北國新聞社

修復作業や記念植樹を実施し、記念植樹は、石川県造園緑化建設協会の協力を得ました。

カイズカイブキ二本を南京市明城垣史博物館脇の公園の一角に植樹いたしました。団員一同快い汗を流しながら、この木が石川県と江蘇省の友好の証として、子々孫々まで残るものと思っております。

また、南京市内のホテルで江蘇省の人民対外友好協会との文化交流会を開き、居合道・空手・茶道の伝統の技や寿司やステーキの鉄板焼きを披露し好評を得ました。

人民対外友好協会の吾錫軍会長は「小松―上海定期便に触れながら石川県と江蘇省との距離が縮まれば感情もますます近くなる。交流の継続は大切だ」と話しました。これに対して、紐野団長は「日中間には悲しい出来事があったが、交流を積み重ね、日本と中国の次代を担う若者同士の努力が欠かせない」と述べました。今回で四度目の文化交流派遣団の訪問となり、草の根友好の輪は着実に前進していると思っております。

今回の訪中にあたり石川県造園緑化建設協会からのご篤志について深く感謝すると共に、皆様のごますますのご繁栄をお祈りいたします。

## 白峰の焼畑にみる自然と人為のバランス

金沢美術工芸大学  
環境デザイン専攻 助教授  
鉦 隆 弘

数年前より、白峰村で焼畑作業に参加させてもらっている。

この焼畑を毎年行っているのは、この地域で牛首嶽を作ったいらっしやる西山さんご家族と会社の方々である。焼畑技術の伝承とそこから得られる山の幸を楽しまうというのが、この活動の趣旨である。焼畑というと南米のアマゾン地域やボルネオ島などの例に見られるような森林破壊、自然環境破壊のイメージが強いのではないだろうか。また、「焼畑的」という表現では、将来を考えると今の利益を追求すればよいといった意味の形容詞として使われることもある。白峰村での作業に参加した経験からすれば、焼畑の規模がそんなに大きくなければ、自然と人為の間わりにおいて、大変バランスのよいものと理解している。

白峰村の焼畑は、「出作り」という山の民の暮らしの中で行なわれたものである。「出作り」は山に囲まれ平地がきわめて少ない状況の元、山間部に点在する緩斜面や平坦地において畑を開墾し、そのそばに住居を構え暮らす形態である。昭和の初め頃までは盛んに行われていた。焼畑はそこでの食料自給の方法



であった。

焼畑では、ある土地を焼いて数年間作物を栽培すると、その後20〜30年間は土地を休養させる。毎年、土地を移しては焼いて、20〜30年後には元の土地に戻って来て焼くことをしていたようである。この年数にわたって土地を休養させると、植生が復元し、復元した植生の量から再びそこで焼畑を行なうことができる。白山麓では、土地を地主から借りて利用する請作地の契約期間は、おおむね20年であった。この契約期間が、一度焼畑を行ない、再び焼畑を行なうことのできるようになる20年ほどと決まったことは、この土地

の自然条件を明確にあらわしており、興味深い。

20年ほど経った林の様子には、落葉広葉樹の林分で樹高は高いもので5メートル程度、太さは大きなもので15センチメートルほどである。樹形は、斜面から素直に上に伸びているのではなく、多量な積雪の影響で、地面から斜面下方に一旦伸び、それから弧を描いて上に伸びる様子を呈している。表層は野性的な様子であるが、土は人為的な間わりを明快に見せる。過去に何度も焼畑で手を入れたところは柔らかく深い。大きな石は出てこない。とはいえ、その土は人為的な間わりは見せるものの野生のままである。火以外のものが入っていないせいであろう。

近年、都市の中の緑として、金沢の寺町の墓地や寺院境内の樹木を調べている。タブノキやケヤキがかなりの密度で育つ自然的な林も見ることができ、しかしながら、それらの林分から、ある種の脆弱な印象を受けるのは、焼畑で見られるような20年ほどの植生の回復が、明らかに期待できないことによるものであろう。火を入れてある期間を置いて、また回復する能力を持つ土地や気候の環境と、それに上手にあやかってくる人為的なバランスは、土地固有の時間的な価値まで示している。様々な場所を伐り開いて生きて行く我々にとって、その時間的な価値こそ、もっと敏感に考えなければならぬ対象と考える。

# 学校緑化の産声

## ～金沢市四十万小学校の校庭芝生化～



平成15年度に調査研究をスタートさせ、先進地の視察や大学の先生の助言を仰ぎ、協会の総力をあけてその実現に取組んできた校庭の芝生化県内第1号が、金沢市立四十万小学校でまもなく産声をあげる。



9月の下旬になれば、子供たちが緑鮮やかなグラウンドの上を嬉々として走り回り、柔らかな感触を楽しむことだろう。

今グラウンドの芝生は、毎日両協会の手で散水や除草などの手入れを受け静かに眠っている。

6月15日グラウンドの土壌改良工事で始まった芝生化への取り組みは、越前川県造園緑化建設協会と金沢市造園緑化協会委員の協力により順調に進み、7月30日に同校6年生全員と力を合わせて希望の芝張りを行った。

最近では、ややもするとグラウンド等の施設利用者は利用するだけで、施設の管理清掃は別の者(往々にして行政側)が行なうのが当然とする風潮が見られるが、美しい環境の中で活動する素晴らしさと共に、その美しい環境を自分たちで守る気持ちを育てることこそ教育の基本ではないだろうか。

この意味でも、四十万小学校が校庭の芝生化のみならずその維持管理についても、これに続く他の学校の模範となるシステムを整備されるよう願う次第である。

もちろん越前川県造園緑化建設協会及び金沢市造園緑化協会としても同システムの整備に当っては全面的に協力することとされている。



ともあれ、四十万小学校

から始まる校庭の芝生化が、他の小学校にも引継がれ、全市の小学校のグラウンドが緑に覆われる日が一日でも早く実現することを夢見る次第である。

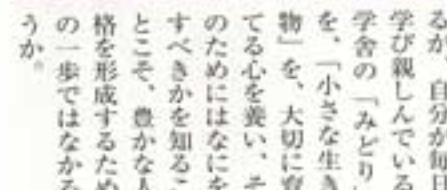
しかし、「学校の緑化」は校庭の芝生化に限るものではない。花壇、校門から校舎への道の緑化、更には校舎壁面の緑化、屋上緑化成いはビオトープ等といろいろ考えられる。何れもコンクリートに囲まれ無機質になりがちな学校の雰囲気に関わり、いを与え、人と生き物の関わり、生き物を慈しみ育てることの大切さを身近に体験できる、生きた教育の場を提供することだろう。

植える木は、例えば辰巳ヶ丘高校のりんごのように、それぞれの学校の特色をもたせたものが良いのではなからうか。

このように述べると、必ず「予算がない」、「管理は誰がするの」との声が返ってくる。しかし、ゆとりのある教育、ボランティア教育の必要性が叫ばれる今日この頃である。介護等のボランティアも大切な教育であるが、自分が毎日学び親しんでいる学舎の「みどり」を、「小さな生き物」を、大切に育てる心を養い、そのためにはなにをすべきかを知るこそこそ、豊かな人格を形成するための一歩ではなからうか。

意 義

1. 教育上の効果



準備手法

1. 教育活動や体育活動の活性化  
芝草により緑化された屋外運動場等は、芝草の持つみずみずしい緑色と自然素材のもつ柔らかさや弾力性によって、学習活動に多様性と安全性をもたらすことができます。

2. 環境教育の生きた教材として活用  
屋外運動場等の緑化に係る様々な活動を、学校の日常的な教育活動の中に組み込む。

例1. 植物材料を理科や生活科、総合学習に取り入れる。  
植物の維持管理を行うことにより、環境に対する関心や慈しみの心、社会性、公共心等を養う。

例2. 植物材料を理科や生活科、総合学習に取り入れる。  
植物の維持管理を行うことにより、環境に対する関心や慈しみの心、社会性、公共心等を養う。

例3. 植物材料を理科や生活科、総合学習に取り入れる。  
植物の維持管理を行うことにより、環境に対する関心や慈しみの心、社会性、公共心等を養う。

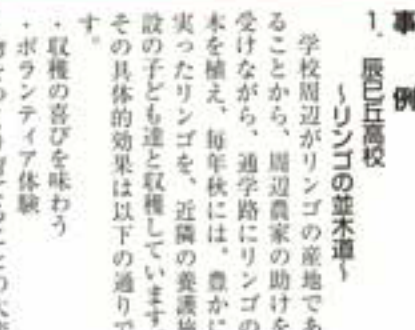
例4. 植物材料を理科や生活科、総合学習に取り入れる。  
植物の維持管理を行うことにより、環境に対する関心や慈しみの心、社会性、公共心等を養う。

1. 学校敷地の区分と植栽
  - ① 周辺植栽
  - ② 校門から玄関までのアプローチ周辺
  - ③ 校舎周辺
  - ④ グラウンド
  - ⑤ 建物屋上の緑化及び壁面緑化

2. 小松市内の保育園・幼稚園  
「バードガーデン」  
・ 樹種 実のなる木  
・ 花壇工 丸太(自然木)を使用  
・ 鳥の止木水飲場を設置

1. 事例  
展(五)高校  
・ リンゴの並木道  
学校周辺がリンゴの産地であることから、周辺農家の助けを受けながら、通学路にリンゴの木を植え、毎年秋には、豊かに実ったリンゴを、近隣の養護施設の子ども達と収穫しています。その具体的効果は以下の通りです。  
・ 収穫の喜びを味わう  
・ ボランティア体験  
・ 物をつくり育てることの大変さを学ぶ  
・ 季節の移り変わりを感ずる

1. 事例  
展(五)高校  
・ リンゴの並木道  
学校周辺がリンゴの産地であることから、周辺農家の助けを受けながら、通学路にリンゴの木を植え、毎年秋には、豊かに実ったリンゴを、近隣の養護施設の子ども達と収穫しています。その具体的効果は以下の通りです。  
・ 収穫の喜びを味わう  
・ ボランティア体験  
・ 物をつくり育てることの大変さを学ぶ  
・ 季節の移り変わりを感ずる



## 金沢駅東広場の概要

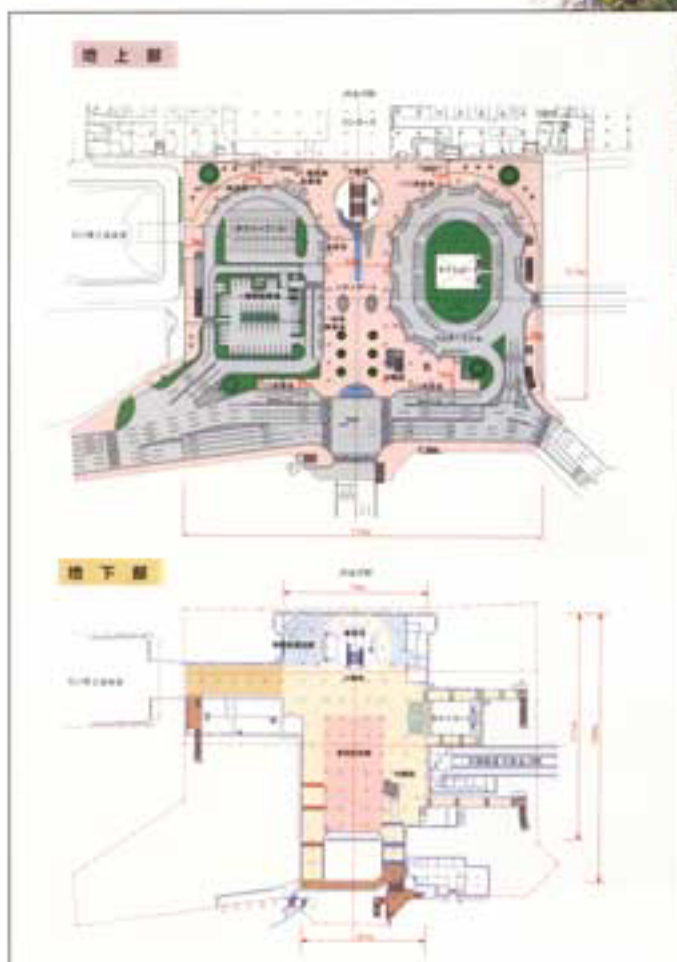
かなざわ便り

基本構想 「伝統の広場」 「歩行者優先型広場」

- 整備方針
- 金沢らしさの創出
  - 充実した歩行者空間の確保・バリアフリーの徹底
  - 合理性と機能性

### ■都市計画決定面積(東広場)

	従来広場(S29都決)	現在広場(H7都決)
全体面積	17,800	27,000
広場	10,900	19,400
道路	6,900	7,600



## 都心軸を中心とした まちなかの活性化

### 金沢駅東広場の整備

北陸の玄関口として整備を進める金沢駅東広場では、大屋根(ガラスドーム)を完成させるとともに、シティーゲートや情報発信コーナーの整備など広場整備の総仕上げを行い、平成17年春の広場全体の完成をめざします。

## 空港周辺地利用における提案

### 笑顔があふれる交流のゾーン

小松空港は、石川県の南西部あり、加賀平野のほぼ中央に位置しています。交通面では、西に北陸道、東側に国道9号線に隣接し、これらの、アクセスの良さを生かした土地利用を考える。空港施設周辺は、空地が目立ち、松林などの緑もあるが年々減少の傾向である。また工業団地も画定しており、いろいろな事を踏まえて、この土地を有効に利用を図るため、多くの人々がいきいきとした、日常生活を実現できる健康づくりの環境が求められている。



### 空港公園の設置

- 緑を生かした空間 ~地球にやさしい、人にやさしい
- 空港の見える丘 ~遊力満点の景色~
- 健康な心身をはぐくむ ~あふれる緑、花にかこまれて、スポーツを~

かが便利

# 加賀地区区民センター 小松空港周辺地 利用における提案!



### スポーツエリア

#### スポーツゾーン



**多目的グラウンド**  
(サッカー、フットサル、ラグビー、野球、ソフトボール等)  
大会などで利用できる全天候型のグラウンドを  
複数整備する。(県内より競技合戦の誘致を受ける)  
対象年齢：小学生～



**マウンテンバイクコース**  
自然の中を思いっきり走ってみたい。  
専用の自然や松林を生かしたコースの整備  
対象年齢：小学生～



**テニスコート**  
テニススクールや学生一帯の大会、練習試合等  
施設充実だけでなく、誰でも利用できる施設の整備  
対象年齢：小学生～



**クライミングウォール**  
クライミングウォールとは自然の岩壁を模した、  
クライミング専用の施設です。  
体力・気力・知力を鍛えられる楽しいスポーツです。  
対象年齢：小学生～

#### レジャーゾーン



**パークゴルフ場、グランドゴルフ**  
パークゴルフはクラブ1本とボール1個があれば  
誰でも気軽に楽しめるスポーツです。  
年齢や体力による差が少なく、それでいて奥深い  
ところが人気です。  
対象年齢：小学生～



**スケートパーク**  
小松市周辺ではスケートボードやインラインスケート  
のできる施設がありません。その必要性も、  
公園や駐車場などで練習しています。しかしそれが、  
公共物破壊や迷惑の騒音といった問題を巻き起こし  
ています。そこでスケートもスポーツだという視点で  
安全に安心して練習できる場所を整備します。  
対象年齢：小学生～

の  
と  
便  
り樹木医による研修会  
(外科治療)

講師 樹木医 中川 茂氏  
 七尾勤労者総合福祉センター  
 (ワークバル) 2F 視聴覚室

県内外での御活躍の長い中川氏には、樹木への外科治療の取り組みに関しては、工事的な考え方から脱してもっと真摯な考え方が必要であることを、経験事例を通して語っていただきました。又、用意していただいたビデオで、病害、虫害、不朽状況等をわかりやすく解説していただき、大変好評でした。さらに、東京での研修から帰ったばかりで、最新の外科治療の考え方は、植物自体の防御組織



を大事にする自然のままの考え方で、排水とか土壌改良で根の活動を促進させる考え方に変化してきており、従来の外科治療法や作業は、他の次元での要請や目的から作業に当たるとなるだろうという話をされました。

大変お忙しい身で本当にありがとうございました。継続的な講習会にならないかという意見も出ていました。

## 農業講習会

講師 石川県農林水産部消費流通課  
 小谷 綱雄氏  
 日栄商事株式会社  
 小栗 芳知氏  
 七尾勤労者総合福祉センター  
 (ワークバル) 2F 視聴覚室



農業取締法の改正に促し、過日、協会でも研修会は開催されましたが、現場の人への更なる啓蒙と周知徹底、そして勉強会をかねて計画しました。

小谷氏よりは、法改正の中でわれわれに一番身近な部分は、健康と自然環境の保護保全を目的とするために、使用者に対する規制、罰則が生じたことであり、農業使用基準の遵守や使用時に必要な考え方、対策についてわかりやすく講演していただきました。

小栗氏からは、登録外使用に関して厳しく説いていただいた後、現在登録されている薬剤について対象となる病名、害虫名をビデオを併用して、説明していただきました。又、新規登録はお金のかかることであり、業界からメーカーへの運動が有効であることを言われました。

「景観とまちづくり」  
研修会

去る3月30日、金沢地区による勉強会が生涯学習センター(旧県庁新館)にて開催されました。講師に石川県土木部都市計画課の小間井氏をお招きし「景観とまちづくり」と題して行われ

まずは少子高齢化・人口減少により、これまでの郊外型発展から市外中心型(コンパクトシティ)に移り変わっていく事。そして経済優先・機能優先の都市から持続可能なまちづくりをしていく事の大切さを述べられました。

次に過去のまちづくりの事例を海外、国内と紹介され、これからの石川県そして金沢のまちづくりの参考となるポイントを挙げていただきました。樹木一本の植栽、不要な看板の撤去などちよっとした手直しで街の表情も変わっていくます。これまでの強制力の無かった景観条例に替わり「景観三法」の整備も行われています。

これからの提案型の営業等に大変参考になる講演であり参加者30名も熱心に受講されていました。



## 協会トピックス

## 「奥卯辰山千本桜」の植栽達成

平成14年(社)石川県造園緑化建設協会では、「第18回全国都市緑化いしかわフェア」を記念し、何か後世まで残るものをとの発想でいろいろ検討を重ねた結果、奥卯辰山に桜の名所を作り、賑わいを取り戻そうとのことで意見がまとまり、平成14年、15年、16年の3年間で桜を植栽し、「奥卯辰山千本桜」と命名することとなった。初年度である平成14年3月当時の石川県土木部中島部長に臨席いただき、奥卯辰山健民公園で寒風の中80人の協会員が力を合わせ「そめいよしの」600本を植栽し、記念の石碑を据えた。

平成15年3月には、石川県健民生活運動本部から「じゅうがつさくら」200本の苗木の配布を受け追加植栽した。

平成16年3月7日石川県健民生活運動本部から頂いた最後の200本を植栽し、念願の千本さくら植栽を達成するため、谷本石川県知事、北村、紐野、下沢協会顧問に臨席いただき盛大に「奥卯辰山千本桜」植栽達成記念式を挙行了した。あいにくの寒波の襲来で奥卯辰山一体には積雪もあり、予定どおり植栽できるかどうか懸念されたが、奥卯辰山健民公園職員の方々にも協力いただき、植栽箇所の除雪を行い予定どおり挙行了した。植村会長の開会挨拶に続き、谷本知事、北村、紐野、下沢3顧問の祝辞が終わり、記念植樹の始まる頃には、空も晴れ上がり柔らかな陽光の射す式典日よりとなり、千本桜の植栽が恙無く完成した。

健民公園職員の話によれば、初年度に植えた「そめいよしの」の中には花をつける木もあるとのことであり、2、3年後の春花見の人で賑わうことが期待される。



# 浜名湖花博をみて

田畑智日

石川県造園緑化建設協会の研修旅行が5月20、21日、愛知・静岡浜名湖方面を視察しました。メインは浜名湖の花博でしたが他の視察した由緒在る庭園も素晴らしいものばかりで、大変意義の在る素晴らしい研修となりました。

花博会場では、敷地の広さもさることながらなにもかもが圧倒されるほどの規模を誇るのですがかといっ、細部もおろそかにしな

い。また新しい植栽技術や建築との兼ね合いを十分に考えた人工地盤、屋根、壁面、などにおける植物の特性を存分に発揮させた植栽となっていました。

洋ランでは300品種1万本、まためずらしいバラやハイビスカスが物の見事に咲き誇っていました。園芸品では撮影禁止の見事な鉢植が飾られていました。次はどんなだろうとわくわくしながら歩きましたし、自

然と足が前に進み、東京ドーム12個分の広さも飽くことなくみることが出来ました。植栽本数、花、500万本、樹木、8万本、この驚異的な数字が納得できました。

園路は広く、そしてバリアフリーなどの配慮、車椅子やベビーカーの貸出しなどのサービスも充実していました。



この会場を3つのエリアにわけた緑の里(メインゲートから一番奥)エリアでは百華園やモノの庭がやはり人気があり、ここで何度かカメラ撮って頂きますかと尋ねられま

ました。ろん僕は、快くシャッターをきりました。百華園の色とりどりの花の賑やかさで思わず心が弾みます。対照的にモノの庭では睡蓮の浮かぶ池にシタレヤナギや竹林など風情の在る日本の草木が広がる静かで落ち着いた趣を、またバラのアーチを中心とした自然の光を柔らかく包み込むような朝日、夕日の花壇が迎えてくれます。退屈しない本場に素晴らしい花博をみる事が出来ました。

近代造園施工の技術とデザインはまさに芸術を感じさせるものでした。砂丘地における広葉樹試験植栽の結果について農林工事部会では、去る

## 協会の近況 早朝の金沢市内街路樹への散水

今夏の石川県地方は、最近になく高温少雨の猛暑となり、人も動物も木陰を求め、水を求める日々が続いている。市内の街路樹も水不足にあえいでいる。

石川県造園緑化建設協会と金沢市造園緑化協会では、日頃目を和ませ街に潤いを与えるべく街路樹を助けるため、去る8月6日急速散水することとなった。当日午前5時両協会員100人が50台の車を満載し、金沢城公園内駐車場に集まり、植村会長の挨拶に続いて金沢市緑と花の課上田課長の謝辞と激励を受け、それぞれ目的の箇所へ向けスタートした。

限られた人数、限られた時間では、とても全市内の街路樹への散水は無理であるが、市民が洗面後の、洗米後の一杯の水を近辺にある街路樹に注ぐ気持を喚起するためにも行なったものである。なお、石川県造園緑化建設協会では、金沢市内だけでなく、加賀地区及び能登地区でもそれぞれの地域で同様の散水活動を実施することとしている。

4月23日(金)朝8時30分金沢地区、加賀地区部会員は金沢市専光寺浜砂丘地の試験植栽地へ、また能登地区部会員は羽咋市千里浜砂丘地の試験植栽地へそれぞれ集まり、恒例の除草掃除などに汗を流した。始めてから10年目の節目に当る今春その成果をまとめるためもあり、特に入念に行なわれた。植栽した樹種で枯死したものもある中、見事に成長した樹種も数種類あり、この成果については現在同部会で取りまとめ中であり、近々公表することとしている。



## 電子納品システム研修会開催される

石川県造園緑化建設協会では、石川県におけるCALS/ECの実施計画に添うため、昨年度の電子入札に続き、さる7月上旬金沢、加賀、能登の3地区に別れ、電子納品システムに関する研修会を開催した。当日は、金沢地区45名、加賀地区14名、能登地区12名が参加し、メモを取りまた講師の棟建設システムCALS/ECインストラクター 久保田 亮氏に鋭い質問をするなど、研修に励んだ。